

## 大地のハンター(3)巣穴から出る獲物を待ち伏せ

2021/3/21付 | 日本経済新聞 朝刊

音や匂いを手掛かりにネズミがいそうな穴に狙いを定める。じっと待ち続け、ネズミが出てきた瞬間に飛びかかる。マヌルネコは待ち伏せ型のハンターだ。中央アジアを中心にロシア南部や中国北部まで分布する。

「マヌル」はモンゴル語で「小さいヤマネコ」を表す。体長は40～50センチメートルで、イエネコと同じくらいの大きさだ。茶灰色の体は岩場で目立ちにくい。那須どうぶつ王国（栃木県那須町）の佐藤哲也園長は「飼育していても見失うときがある。忍者のようだ」と話す。丸まっていると岩のように見えるという。



生息地は標高が高く、気温が低い。冬毛は長く、密になっている。足の裏は大きく、雪に埋まらない。雪国で履く「かんじき」の役目をする。

丸い体や、獲物を待ち伏せする姿から緩慢な印象があるが、天敵のイヌワシなどからは素早く逃げる。「どんくさいネコに見えるかもしれないが、『これはまずい』という状況になれば、とても速い」（佐藤園長）。



国立科学博物館で「大地のハンター展」を開催中。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.